



羽衣国際大学Sports

文武不岐の実践により人間力を高める

BCthe ONE 羽衣国際大学
HAGOROMO University of International Studies

現代社会学部 現代社会学科
放送・メディア映像学科

人間生活学部 人間生活学科
食物栄養学科

〒592-8344 大阪府堺市西区浜寺南町1-89-1
TEL 072-265-7001 FAX 072-265-7005
https://www.hagoromo.ac.jp/sports

はごろもこくさい スポーツ 検索



山川



近藤



柏瀬





竹之内

1部昇格!

バドミントンクラブ
関西学生リーグ女子

堀田V 関西学生選手権 男子シングルスB



令和7年度関西学生選手権の男子シングルス準々決勝には1年生2名が進出。堀田蒼真(放送・メディア映像学科)は準々決勝で気合の入った攻撃を続け、競り合いつつも第2ゲームを25-23で凌ぎ切り、準決勝に進出した。残念ながら郷谷和生(現代社会学科)はファイナルゲームで敗れた。準決勝まで約10日の日程が空いたが、その間に集中的に強化練習を行なったこともあり、準決勝と

4月26日から5月6日まで、関西学生バドミントン連盟春季リーグ戦が行われた。1~5部に女子は38大学、男子は47大学のエントリーだった。

男女とも入替戦へ

バドミントンクラブは男女とも2部に所属。女子は過去最高順位の2位となり、1部との入替戦に初めて進出した。

リーグ戦第3戦の甲南大戦で敗れたが、大体大との第4戦で0-2の厳しい状態から3試合を連取。あきらめずに粘って、ポイントを奪い返したことが、神院大との最終戦につながり、リーグ戦で4勝をあげるこ

とができた要因となった。

男子は苦しい試合が続ぎ、最終戦で1勝したものの、3部との入替戦となった。

入替戦は5月11日に滋賀県皇子ヶ丘公園体育館で行われ、女子は関西大に3-2で勝利し、1部昇格を果たした。

男子は苦しい試合が続ぎ、最終戦で1勝したものの、3部との入替戦となった。

入替戦は5月11日に滋賀県皇子ヶ丘公園体育館で行われ、女子は関西大に3-2で勝利し、1部昇格を果たした。

学生春季リーグ女子

1部・2部入替戦

羽衣国際大(2部2位)

○3-2 関西大(1部7位)

○近藤ももな(3年)

○竹之内萌(2年)

●山川瞳(3年・竹之内萌)

○近藤ももな

●柏瀬倫佳(3年)

○柏瀬倫佳

○3-2 関西大

大会成績

◆令和7年度関西学生春季リーグ戦

【女子】2部リーグ戦[2勝1敗]

○4-1 神戸親和

○5-0 大阪教育大

●2-3 甲南大

▽2部上位リーグ

○3-2 大阪体育大

○4-1 神戸学院大

★2部2位(4勝1敗)

▽1部・2部入替戦

○3-2 関西大

★1部昇格

【男子】2部リーグ戦[0勝3敗]

●1-4 大阪体育大

●0-5 大阪産業大

●1-4 大阪成蹊大

▽2部下位リーグ

○1-4 神戸親和

○3-1 追手門学院大

★2部7位(1勝4敗)

▽2部・3部入替戦

強化クラブ結束会

2025年4月1日、強化クラブ結束会を行いました。強化クラブの方針である「文武不岐の実践により人間力を高める」ことを理解し、強化クラブ生としての意識を涵養することが目的です。今年は、4強化クラブ合わせて19名の新入部員を迎えました。

新入生紹介

堀田蒼真(放送・メディア映像学科 情報システムコース)
郷谷和生(現代社会学科 スポーツコース)
宮川敬良(現代社会学科 スポーツコース)
田中花実(現代社会学科 国際英語コース)
千谷ひなた(食物栄養学科 スポーツ栄養コース)



バドミントンクラブ
公式Instagram



悔しさを糧に進化の2位

女子ソフトボール部

西日本インカレ出場へ!!

関西学生春季リーグ
2部B

すべての部員が活躍した成果



第56回関西学生ソフトボール春季リーグ戦は、羽衣国際大学ソフトボール部にとって意義のあるリーグ戦になりました。

昨年度の春季リーグ戦は、多くの試合で大差の敗戦。悔しさを胸に、練習に励み、迎えた秋のリーグ戦では1勝しかできませんでしたが、しかし、僅差の試合が増え

チームの進化を感じました。そして、今回の春季リーグ戦。惜しい試合を続けるのではなく、結果を出したリーグ戦でした。

結果は、2部Bリーグで3勝1敗、2位となり、西日本インカレにも出場できることになりました。

チームがひとつになって戦い抜き、すべての部員が

活躍したリーグ戦でした。これまで、あきらめずに一歩一歩前に進んで来られたことがよかったと思っています。

最後になりましたが、今リーグ戦でもご声援頂いた皆様にお礼を申し上げます。ありがとうございました。

監督 岡本 耕一

これまで以上に全力で

#4 寺崎夏実



数少ないリーグ戦で少しずつ戦績を上げ、西日本インカレの出場権を獲得することができました。

しかし、接戦に持ち込んだゲームでも最後に力負けすることが多く、まだまだ練習不足だと感じています。

4月からは、新入生が加わり一気に士気が高まりました。先輩として必要な時にしっかり支えてあげられるような存在になりたいと思います。

また、私自身も悔いを残さないよう、今後さらに日々の練習に力を入れたと思います。

仲間がいるからこそ

#18 宮本杏弥



順位を上げて西日本インカレに出場できること、本当に嬉しく思います。この結果を出せたのは、打たれても守ってくれる野手、点を取られても取り返してくれるバッター、そしてピンチのときもチャンスのときも声をかけて励ましてくれる仲間がいたからです。

そんな仲間たちに支えられて、最後まで自分も頑張ることができました。チームとして、少しずつですが前に進めてきていると思う

春季リーグ戦のタイトル受賞者 2部B

#1 辻川紗羽

★最優秀打撃賞1位
★最優秀盗塁賞1位
★ベストプレー賞



この度はこのような賞を頂くことができ、大変光栄に思います。私だけの力ではなく、監督、いつも引率して下さる先生方、マネージャー、先輩方、同級生の支えがあったからだと思います。

大学入学後初めての公式戦だったのでとても緊張しましたが、とにかく出塁すること意識しました。西日本インカレの出場権獲得に少しでも貢献できたことはとても嬉しい気持ちでいっぱいです。

支えて下さった方や応援して下さいの方など、たくさんの方にいい報告をすることができてよかったです。今の結果に満足せず、さらにレベルアップできるように、常に謙虚さと向上心をもって努力します。

#16 大江梓月

★最優秀投手賞2位

2位というとても悔しい結果となったのですが、このような賞を頂くことができて大変光栄に思います。それに伴い、西日本インカレ出場を目標にピッチャーに戻り、個人的な目標達成もできたこと、とても嬉しく思います。

ここで満足せず、次のステップに私もチームも着々と進んでいけるよう、気を引き締めて練習に励みたいと思います。

UNIVAS AWARDS2024-2025 サポニティンクスタッフ・オブ・ザ・イヤー部門 優秀賞受賞



太田美遥さん

女子ソフトボール部マネージャー
食物栄養学科4年

高校時代より、ソフトボール部のマネージャーを務めています。マネージャーの仕事は、多岐にわたりますがそのすべてにおいて、常に先を見据えて行動するように心がけています。

学業では、時間の使い方を工夫し、授業外学習も習慣にしています。本

学には、学業や課外活動において他の学生の模範となる学生に授与される「BE the ONE 特別奨学金」という制度があるのですが、2024年、2025年と2年連続で選ばれました。今後は、管理栄養士になるために学業に専念し、国家試験合格を目指します。

「BE the ONE 特別奨学金」の対象学生にも選ばれています。

管理栄養士を目指して「文武不岐」を実践しています。



羽衣国際大 ● 9-10 大阪国際大

全日本総合大阪府予選大会

大会成績

◆関西学生春季リーグ戦(2部B)

羽衣国際大 ● 2-3 天理大

○ 6-3 大徳大

○ 11-3 大阪公立大

兵教大

四天王寺大

合同チーム

京都先端科学大

◆インカレ予選

羽衣国際大 ● 2-11 大阪大谷大

○ 7-11 京都先端科学大

(8回タイブレーク)

湯浅遠征

2025年3月19日～21日の3日間 和歌山県湯浅町にて春季リーグ戦前の強化合宿を行いました。新入生3名も参加し、大学のグラウンドではできない実戦練習をメインに練習を行いました。全員で一球に集中し続けた3日間で、みんなで笑い合ったり、今のミスをどう改善するべきかを考えたりしながら練習に取り組むことができました。みんなの気持ちがよりひとつになった遠征となりました。





鶴身佳音
記録更新中



古好未侑
5000m自己新



奥澤虹雨
5000m自己新



木村心咲
3000mSC
大阪学生3位

女子駅伝部 競技力の着実な向上

女子駅伝部は2025年3月初旬に鹿児島県奄美市で6日間の強化合宿を実施しました。名瀬運動公園陸上競技場を拠点とした集中練習では、天候に恵まれないう日もあったものの、各選手が個々の目標を明確に持って練習に取り組ましました。

4月からの新入部員も合宿に参加し、既存メンバーとの連携を深めながら、刺激を受けた様子でした。

4月には新たに2名の仲間が加入し、本格的な新チームとしての活動がスタートしました。

2025年トラックシーズンに入り、最も注目すべきは、チーム全体の記録向上です。

河本優希選手（食物栄養学科4年）は、8000mで2分24秒47、15000mで4分45秒91、30000mで10分31秒43と複数種目でパーソナルベストを更新し、中距離から中長距離までの幅広い適性を示しました。

奥澤虹雨選手（食物栄養学科4年）も5000mで17分33秒01とベストを出し、チームのエース格としての存在感を示しています。

特に印象的なのは1年生選手急成長です。

古好未侑選手（食物栄養学科1年）は4月のデビュー戦の5000mで17分42秒07を記録した後、わずか1ヶ月後の5月には16分59秒36まで記録を短縮し、チームの主力選手として即戦力となっています。

鶴身佳音選手（人間生活学科1年）も8000mでデビュー戦の2分37秒23から



奄美合宿

2分28秒52へと順調な成長を見せており、新入生の戦力化が順調に進んでいることが確認できます。

木村心咲選手（食物栄養学科4年）は障害種目の3000m障害で安定した力を発揮し、11分44秒63から11分39秒41へと記録を更新しています。第73回大阪学生陸上競技対校選手権大会では3位入賞を果たし、関西学生レベルでの競争力を証明しました。

岡本百萌子選手（食物栄養学科2年）もハーフマラソン、3000m障害で存在感を示しています。

新入部員の 意気込み



食物栄養学科の
古好未侑
です。長い距離を走ることに得意なので、持久力を武器にして、個人でも、駅伝でも活躍できる選手になれるように頑張りたいです。

4年間の個人の目標は、全国の舞台に立つことです。駅伝での目標は、チームの目標でもある全日本大学女子駅伝に出場することです。この目標を達成するために日々の練習を大切に頑張っています。応援よろしくお

今後の展望と課題

チームの基盤は確実に強化されていますが、今後に向けた課題も明確になっています。まず、継続的な記録向上を図りつつ、関西学生レベルでの上位進出を目指すこと。特に主力選手については全国レベルでの競争力獲得が求められます。

また、秋の駅伝シーズンに向けては、個人の記録向上だけでなく、チーム一体となった駅伝での戦術構築と区間配置の最適化が重要となります。

現在の7人体制で駅伝エントリーに必要な人数は確保されていますが、さらなる戦力の厚みを増すための新たな人材獲得も課題の一つです。

高校時代には主にスピードを武器にしてレースに取り組んできました。今後はそのスピードに加え、持久力・体幹・筋力をしっかり鍛えて、大学のレベルの高い環境でも、チームに貢献できる選手になりたいと思っています。4年間、仲間と切磋琢磨しながら、結果にもこだわられる選手を目指して頑張ります。よろしくお願ひします！



人間生活学科の
鶴身佳音
です。好きなことはお菓子作りです！大学4年間の個人の目標は日本インカレへの出場、チームとしては全日本大学女子駅伝に出場することを目指しています。

インタビュー

テコンドーで世界を目指す

信濃明梨
(現代社会学科スポーツコース1年)

【主な実績】2024年の全日本テコンドーブムセ選手権大会で女子U30規定ブムセ1位、女子O17フリースタイル2位となり、大会女子MVPを獲得。2025年O17フリースタイルA級強化指定選手。FISOユニバーシティゲームズ(ドイツ)補欠選手。

Q. テコンドーを始めたきっかけは？
A. 小学1年生の時に、近所の道場の体験会に父と参加しました。最初は、父だけが入会しましたが、見ているうちに自分もやりたくなりました。

Q. テコンドーの楽しさは？
A. 努力の成果が点数化されるところに魅力を感じます。試合で勝ち続けられるのもうれしいです。

Q. 練習の頻度は？
A. テコンドーは、ブムセと呼ばれる型と、音楽に合わせて横蹴り、マルチプルキック、回転蹴り、連続蹴り、アクロバットキックの5つの技術を披露するフリースタイルに分けられます。私は、型とフリースタイルを合わせて、週に6回練習しています。

Q. 今後の目標は？
A. 直近では2025年10月に開催される全日本選手権での優勝を目指しています。優勝すれば、2026年アジア競技大会の代表選手に選出されます。大学4年間の目標は、大学生だけが出場できるユニバーシアード大会に出場することです。2年に一度実施され、ドイツで開催される今年は補欠選手として参加します。今しかできないことに、全力で取り組んでいきたいと考えています。

卒業する先輩方へ

2025年3月に行われた卒業式では、4年生の先輩方を送り出し、感謝の気持ちを表すとともに、新チームでより高みを目指す決意を新たにしました。

大会成績

◆第73回大阪学生陸上競技対校選手権

- ▽8000mタイムレース決勝
- ▽河本(4年) 2分24秒47 P B
- ▽15000m予選
- 奥澤(4年) 4分53秒93 / 河本(4年) 57秒67
- ▽1500m決勝
- ▽河本(4年) 4分49秒03 / 奥澤(4年) 4分50秒89
- ▽5000m決勝
- ▽奥澤(4年) 17分33秒01 P B
- ▽10000m決勝
- ▽森井(2年) 40分55秒26 初
- ▽3000mSC決勝
- ▽木村(4年) 11分44秒63
- ▽岡本(2年) 13分00秒41 P B
- ◆第102回関西学生陸上競技対校選手権
- ▽8000m予選
- ▽鶴身(1年) 2分34秒36

普通救命講習会

突発的な事故に慌てることなく対処できるように、普通救命講習会Ⅰ(3時間)を実施しました。対象は、スポーツ学生と指導者です。修了者には、修了証が手渡されました。



女子駅伝部
公式Instagram



女子駅伝部
公式サイト





リーグ2位: 安打数(12安打)
リーグ7位: 打率(.364)



リーグ1位: 防御率(0.69)
&最多勝(5勝)



リーグ1位: 奪三振率(13.24)
リーグ3位: 防御率(1.04)

【評】2025年度の春季リーグでは、3年ぶりのリーグ優勝(5勝0敗3分)を果たした。エースの黒住涼太(3年)が全8試合に登板し、5勝(防御率0.69)を挙げて、チームの勝利に大きく貢献した。

投手力・守備力強化の成果 防御率&失点はリーグ最少

7試合を中継ぎとして登板した1年生の原隆太も防御率1.04の見事な投球で優勝に望みをつなげた。さらには、野手陣の好守が投手陣を大いに盛り立て、



硬式野球部

春季リーグ戦の表彰者

☆ベストナイン(外野手) 伊藤嘉英(主将/4年) 打率(.364)、安打数(12安打)、打点(5打点)、盗塁(1盗塁)

☆ベストナイン(投手) 黒住涼太(3年) リーグ1位: 防御率(0.69)&最多勝(5勝) 初受賞。

☆ベストナイン(内野手) 原隆太(投手/1年) 大分県・柳ヶ浦高校

☆ベストナイン(捕手) 津田大翔(大阪府・堺西)

☆ベストナイン(外野手) 阪口京太郎(大阪府・岸和田市立産業)

【投手】南部一翔(福井県・福井商業) 原隆太(大分県・柳ヶ浦) 津田大翔(大阪府・堺西) 【捕手】松村 慎(高知県・明德義塾) 【内野手】大仲順也(奈良県・天理) 片木遥人(愛媛県・済美) 濱 璃空(奈良県・奈良大学 付属) 【外野手】國光奏太(高知県・高知商業) 阪口京太郎(大阪府・岸和田市立産業)

新入生9名の精鋭たち



大会成績	
◆近畿学生野球連盟 2025 年度春季リーグ戦 Ⅲ部リーグ	
【第1節】	△6-6 東大阪大学 △2-2 "
【第2節】	△0-0 奈良大学 ○7-1 " ○4-0 大阪教育大学 ○4-0 "
【第3節】	○9-2 兵庫県立大学 ○7-1 "
優勝: 羽衣国際大学 (3年ぶりの優勝) 2位: 東大阪大学 3位: 大阪教育大学 4位: 兵庫県立大学 5位: 奈良大学	
【2部・3部入替戦】	第1戦 ●6-7 太成学院大学 (延長12回) 第2戦 ●1-4 "

【リーグ戦順位推移】		(勝率)	(順位)
2017 秋Ⅲ部	3勝4敗1分	.429	4位
2018 春Ⅲ部	4勝4敗	.500	5位
2018 秋Ⅲ部	4勝5敗	.444	4位
2019 春Ⅲ部	6勝3敗	.677	3位
2019 秋Ⅲ部	3勝4敗2分	.429	4位
2020 春Ⅲ部	【中止】		
2020 秋Ⅲ部	2勝3敗1分	.400	3位
2021 春Ⅲ部	3勝0敗1分	1.00	1位
		(公式記録) 入替戦なし	
2021 秋Ⅲ部	6勝2敗	.750	2位
2022 春Ⅲ部	7勝0敗1分	1.00	優勝
		入替戦敗退	三部残留
2022 秋Ⅲ部	4勝3敗1分	.571	3位
2023 春Ⅲ部	2勝5敗1分	.286	4位
2023 秋Ⅲ部	5勝3敗	.625	2位
2024 春Ⅲ部	6勝2敗	.750	2位
2024 秋Ⅲ部	4勝4敗	.500	3位
2025 春Ⅲ部	5勝0敗3分	1.000	優勝
		入替戦敗退	三部残留

第32回大学野球関西オールスター5リーグ対抗戦

本学初の快挙

春季リーグ戦で好投を見せた黒住涼太(3年)が、近畿学生野球連盟(17大学)の選抜代表メンバー(30名)に選出された。本学初の快挙。対抗戦は6月に開催され、同連盟は準優勝。黒住は決勝7回裏に登板した。

野球を通じて人間形成を図ります。学生の本分は勉強、学生野球の本分は練習です。公式戦も大切ですが、それよりも大切なのは日々の練習です。

目指すは、

- 礼儀正しい大学野球部
- 文武不岐を目指す大学野球部
- 高校より感動できる大学野球部
- 皆から愛される大学野球部

を創ること

硬式野球部の指導方針

監督 伊丹 康治
1972年5月生まれ、大阪府箕面市出身。日本体育大学では、捕手

総監督 竹之内 雅史
1945年3月生まれ、神奈川県横浜須賀町出身。神奈川県立鎌倉学園高校で、鎌倉学園高校では、二塁手として春の甲子園大会に出場。日本通運浦和では、外野手として全国優勝に貢献。西鉄ライオンズ、阪神タイガースなどでは、外野手または一塁手として通算216本塁打(プロ15年)。阪神タイガースをはじめ、計4球団でコーチおよび二軍監督(計18年)。本学監督を経て、2010秋に総監督就任。西鉄ライオンズOB会長も務める。

部長 朝西 知徳
1965年10月生まれ、神奈川県横浜出身。筑波大学大学院体育研究科修了(体育心理学)。山梨・日本航空高校コーチを経て、茨城・鹿島学園高校、鳥取・米子商業高校(現・米子松蔭高校)、本学、羽衣学園高校(初代)の4校で監督を歴任。夏の甲子園

硬式野球部 公式Instagram

硬式野球部 公式サイト

として明治神宮野球大会(3年秋)、全日本大学野球選手権大会(4年春)に出場し、それぞれ全国ベスト4へ進出。和歌山・初芝橋本高校では、コーチとして夏の甲子園大会に出場(のちに監督就任)。本学スカウティングスタッフ・副部長・コーチを経て、2016年秋に監督就任。スポーツ振興課にて強化指定クラブの発展に尽くす。

大会出場1回、中国大会出場6回(最高ベスト4。監督として通算141勝(公式戦)。昭和から平成、そして令和まで30年以上、学生野球を通じた人間教育を続ける。

競技スポーツ副専攻 2025年4月始動!

学業もスポーツも本気で! デュアルキャリアの実現

副専攻/所属する学部・学科の学び(主専攻)に加え、学部・学科の区分を超えて、主体的に興味関心のある分野を体系的に学修する制度。

①目的

大学スポーツを通して、論理的・科学的に分析・実践する力を育成します。

②目標

興味関心を持って懸命に取り組む力を活用し、理論を実践に変換する習慣を身につけます。

③科目

Sports Performance の科学
大学スポーツ基礎論、スポーツコンディショニング、スポーツと健康、スポーツ心理学、スポーツと栄養

Sports Skill の科学
統計学、バイオメカニクス、運動生理学、トレーニング論

Sports Collaboration の科学
コーチング論、スポーツリーダー論I、ボランティア活動

④大学スポーツによる人材育成サイクル

お問い合わせ先 羽衣国際大学スポーツ振興課
【公式サイト】<https://www.hagoromo.ac.jp/sports>
【メール】sports@hagoromo.ac.jp